

令和2年度連携排砂計画及び連携排砂に伴う
 環境調査計画に関する関係団体からの意見と対応（案）について
 【令和2年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（案）
海面漁業関係団体	<p>(入善漁協)</p> <p>① 令和2年1月30日付けで、富山県漁連より排砂実施機関宛てに提出された要望書の内容について、同年4月8日に開催された第164回海振協の中で回答をお聞かせいただきましたが、その内容は、我々海面漁業者が以前から要望しております、水産動植物が生息する海域環境への影響を極力軽減するという観点に立った、新たな施策が講じられているとは全く言い難く、まさにゼロ回答としか思えない内容であり、大いに不満であります。よって、排砂実施機関より、今年度示された排砂計画(案)及び環境調査計画(案)について、当組合としては一切同意出来ません。</p> <p>② また、これまで実施されてきた、連携排砂に伴う環境調査についても、我々漁業者の為に行われているとは思えないことから、今後、排砂実施機関が発注する環境調査について、当組合として一切協力する意思は無く、共第2号共同漁業権内での環境調</p>	<p>(入善漁協)</p> <p>① ダムの堆積土砂の変質防止策その他海域環境に関するご要望をいただき、検討した結果として、宇奈月ダム先行操作を含む令和2年度の排砂計画及び環境調査計画の案や個別の取組を示したところである。</p> <p>海域への環境負荷の軽減について、令和2年度の取組や評価を踏まえ、関係機関及び関係団体のご意見を伺いながら、引き続き検討してまいります。</p> <p>② また、環境調査については、富山県漁連のご意見(④)にもあるように、排砂が海洋環境全般に与える影響を継続的に評価することは必要であると考えており、今年度も可能な調査を実施させていた</p>

	査についてもお断りすることを申し添えます。	だきたい。一方で、環境調査の整理、集約についてご提案をいただいていることから、黒部川ダム排砂評価委員会の委員のご意見を聴きながら、次年度の実現に向けて検討を進めてまいりたい。
--	-----------------------	---

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
海面漁業 関係団体	<p>(朝日漁協) これまでに何度も連携排砂関連の会議に出席して様々な意見を言ってきましたが、一向に漁業者側の意見を聞き入れてもらえる気配が見られません。こうした現状を踏まえると、当漁協としては、今後連携排砂関連の会議には出席したくありません。</p> <p>(泊漁協) 浮泥を流さないこと。</p>	<p>(朝日漁協) ダムの堆積土砂の変質防止策その他海域環境に関するご要望をいただき、検討した結果として、宇奈月ダム先行操作を含む令和2年度の排砂計画及び環境調査計画の案や個別の取組を示したところである。 海域への環境負荷の軽減について、令和2年度の実施計画や評価を踏まえ、関係機関及び関係団体のご意見を伺いながら、引き続き検討してまいります。</p> <p>(泊漁協) 浮遊性懸濁物質(SS)は連携排砂・通砂以外の出水・洪水でもゲート操作の有無に関わらず流下しており、この点をご理解いただきたい。 なお、海域への環境負荷の軽減について、令和2年度の実施計画や評価を踏まえ、関係機関及び関係団体のご意見を伺いながら、引き続き検討してまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
海面漁業 関係団体	<p>(富山県漁連)</p> <p>① 実施機関が平成30年度に強行した土砂排出行為を通常排砂として既成事実化したうえで今年度も連携排砂を実施するものである以上、本会の基本的スタンスは昨年度から変わっておらず、今年度の連携排砂計画(案)に同意することはできません。</p>	<p>(富山県漁連)</p> <p>① 平成30年度の連携排砂については、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成29年度の出水で出し平ダムに堆積した土砂の性状は、砂、礫分が大半を占めていること、 2) 事前のシミュレーションにおいて、平成29年度に堆積した土砂全てが出ないと予測されたこと、 3) 排砂に伴うSS値が過年度の排砂予測或いは実績値と概ね同じであること、 4) 年度を跨いで何時くるか分からない出水を期待するより、土砂が新鮮なうちに排砂する方が環境への影響が少ないこと、 <p>から、2回の排砂を計画、実施したものである。</p> <p>その結果は第49回黒部川ダム排砂評価委員会で「既往の観測値と比較しても大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」との評価を頂いている。これらの計画、実施の経緯並びに評価結果を踏まえたご理解をお願いする。</p> <p>なお、海域への環境負荷の軽減について、令和2年度 of 取組や評価を踏まえ、関係機関及び関係団体のご意見を伺いながら、引き続き検討してまいります。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
海面漁業 関係団体	<p>(富山県漁連)</p> <p>② 漁業者は、長年にわたる排砂により漁場に大量に堆積して消失しきらなくなった浮泥が拡散と沈降を繰り返し、年間を通じて水産動植物に悪影響を与えているのでは無いかとの強い懸念を抱いています。つきましては、この浮泥が排砂に起因するか否かの議論はさておき、まずは漁業者が懸念している堆積浮泥の状況を調査されるよう要望します。</p>	<p>(富山県漁連)</p> <p>② 浮泥が排砂に起因するか否かに関して浮遊性懸濁物質(SS)は連携排砂・通砂以外の出水・洪水でもゲート操作の有無に関わらず流下しているものです。またご要望の状況調査としては過去から底質調査を継続的に実施しており、令和元年度に実施した「黒部川河口周辺海域における海域底生動物への排砂影響分析」(第52回黒部川ダム排砂評価委員会 資料-5)においてデータを取りまとめた結果、底質の粒度組成に経年的な増減傾向はみられないことを確認している。</p> <p>なお、令和元年度から排砂時の海域(表層)濁り拡散状況の検討にも取り組んでおり、海域における土砂動態の知見も深め、公表してまいりたい。</p>

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
海面漁業関係団体	<p>(富山県漁連)</p> <p>③ 令和元年度に実施した深海底質調査を今後も継続するよう要望します。</p> <p>④ なお、入善漁協から、共第2号共同漁業権内での環境調査について、「漁業者の為に行われているとは思えない」との理由により実施する必要が無いとの意見が出されています。</p> <p>本会としては、当該海域での環境調査については漁業者のためだけに行われているものではなく、排砂が海洋環境全般に与える影響を継続的に評価していくうえで今後も必要であると考えています。ただし、上記漁協からこのような意見が出されたことを踏まえ、これまで行われてきた様々な環境調査のうち、調査結果に顕著な経年変化が見られず環境に悪影響を与えていないことが明らかなものについては、当該共第2号共同漁業権内での環境調査に限らず、整理・集約することを検討されるよう提案します。</p>	<p>(富山県漁連)</p> <p>③ 深海底質調査について、第52回(令和2年4月)排砂評価委員会評価を踏まえ、令和2年度も調査を実施する計画案としている。</p> <p>④ また、環境調査については、排砂が海洋環境全般に与える影響を継続的に評価することは必要であると考えており、今年度も可能な調査を実施させていただきたい。一方で、環境調査の整理、集約についてご提案をいただいていることから、黒部川ダム排砂評価委員会の委員のご意見を聴きながら、次年度の実現に向けて検討を進めてまいりたい。</p>

【令和2年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
内水面漁業 関係団体	<p>① 連携排砂は、毎年1回実施されているが、2年に1回実施できないか。 2年に1回実施となると、1年目は大勢の釣り人に楽しんでいただける。また、鮎等の魚類の年間の生育状況の調査ができる。</p>	<p>① 平成29年の連携排砂中止と翌年平成30年の連携排砂では関係機関・関係団体をはじめ、流域の皆様にご不安・ご心配の声をいただいた。 近年、全国的に大規模洪水が頻発する中で、毎年の洪水や土砂流出の量が見通せない状況の中では、ダムの治水・利水機能の維持や、ダムの堆積土砂の変質を抑制する観点から、毎年の連携排砂が必要と考えている。 なお、魚類の調査については、環境調査計画に基づき、黒部川ダム排砂評価委員会の委員の意見を踏まえつつ、実施してまいりたい。</p>

【令和2年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
内水面漁業 関係団体	<p>② 令和元年度における河川整備は、樹木の伐採が主として行われたが、以前から堆積している土砂の搬出は行われていない。特にいたるところに見られた湧水が塞がれ、サクラマス、鮭、鮎等の産卵場所が失われております。早急に復元に取り組んでいただきたい。また、宇奈月湖、とちの湯前の土砂の搬出に取り組んでいただきたい。</p>	<p>② 黒部川では、治水上支障となる箇所について樹木伐採並びに河道掘削を実施している。河道掘削を行うに先立ち樹木伐採を行う必要があることから、令和元年度は樹木伐採を先行して実施した。</p> <p>令和2年度の樹木伐採並びに河道掘削の実施にあたっては、引き続き「魚にやさしい川づくり検討委員会」等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聴きながら河川環境に配慮した整備に努めてまいりたい。</p> <p>宇奈月ダム貯水池内の浚渫に関しては、平成9年6月の「宇奈月ダム事業審議会提言」では、「浚渫作業のために必要な水位低下がダムの利水計画に支障を与え」、「重機・作業船類の出水・洪水時の退避に安全上の問題」があること等から、「排砂ゲートを用いて排砂する方法」が採用されている。</p> <p>なお、令和2年度は、ダムの土砂堆積の軽減が期待される「宇奈月ダム先行操作」を試験的に実施する予定であり、引き続きより自然に近い排砂に取り組んでまいりたい。</p>

	<p>③ 黒部川ダム排砂評価委員会では、令和元年度で実施した連携排砂は環境に大きな影響はなかったと評価している。本当に影響がないのか、連携排砂時に魚類の生息状況を調べるため、黒部川で魚を入れた生簀での実験を行っていただきたい。そして、ダム排砂評価委員の方には立会をしてもらいたい。また、排砂後の河川状況の巡回にも立合っていただきたい。</p>	<p>③ 生け簀での実験では、魚類の退避行動を制約する恐れがあり、現在の調査方法をとっているところである。なお、第52回黒部川ダム排砂評価委員会では、「各専門の委員の意見を踏まえ環境調査の適切な実施に努めること」との意見をいただいていることから、河川における魚類の生息実態調査について、専門の委員の意見を踏まえ実施してまいりたい。</p> <p>また、委員の方々には、これまでも黒部川を視察いただく機会を設けているが、委員会とも相談し、引き続き視察の機会を設けるよう努めていきたい。</p>
--	---	---

【令和2年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
農業 関係団体	<p>① 一般農家では、出し平・宇奈月ダムの連携排砂から長い年月が経過し、その必要性と対応策についての理解は深まっていると考えます。</p> <p>しかし、近年は農業情勢が大きく変化しており、担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となりつつあります。その担い手農家等は、連携排砂の断水時期と農作業の関係に強く留意しています。</p> <p>そうした近年の農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂に対する理解と協力が得られるよう、更なる広報、情報提供に努めて頂きたい。</p>	<p>① 実施機関では、これまでも関係市町のご協力を頂きながら、連携排砂・通砂にかかるお問い合わせや来訪者からのご意見等への対応をはじめ、勉強会及び説明会等の要請にお応えする等、様々な形で連携排砂・通砂の必要性等についてご理解が得られるよう努めているところである。</p> <p>今後も、連携排砂・通砂を実施するにあたっては、関係市町等と連携を密にし、また、関係団体とご相談等も行いながら、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、努めて参りたい。</p>

【令和2年度連携排砂等の実施計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応(案)
農業 関係団体	② 農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂及び通砂により、合口用水の取水停止が長期化しないよう検討願います。	② 今後とも、関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂の実施時間が適切なものとなるよう努めて参りたい。